

# 揚げ茄子のお味噌汁



出張帰りに寄ると久々に息子が帰ってきた晩のこと。食品関係の仕事をし、「今どきの食品会社ってすごいからね、家庭を超えて、レストラン級のものなんてザラだから。」などとよく聞かされていたこともあり、特別何か作らずも、人から頂いた茄子など家にあるものを使ってありきたりの夕飯にすることにした。

「味噌汁まだある？」おかわりを求められ小鍋をさらってお碗を出すと、「揚げ茄子の味噌汁うまいよね。これ味噌汁で一番好きだったんだよ、やっばうまいよ。」

「そうだった？そんなこと初めて聞いたわね。」

「うそ？俺いつも言ってたよ。味噌汁は揚げ茄子がいいってさ」

なんてことないいつも味噌汁のはずだけど、そんなに好きだったの…

小鉢の揚げ茄子を作るついでに作って出した味噌汁に思わぬ反応。なんだかおかしくなってしまった。そういえば、揚げ茄子を作るときは、こうやって味噌汁にも揚げ茄子を入れていたかもしれない。

味噌汁といえば、私はいつも遠い昔、台所に立つ母の背中と、青青としたさやいんげんが鮮やかな母の味噌汁を思い出してしまう。

もう味がどうなどまでは思い出せないが、とても真面目でやさしい味だったことが私のどこかで記憶しているようで、“おいしい”味噌汁の思い出と聞かれても、やはりそれを思い出してしまう。

味噌汁とは、そんなものかもしれない。

特別なごちそうや高級なものというより、誰かを思って、ちょっと手間をかけてこしらえるもの。味噌汁、いえ、おいしさとは、それがあってそれさえあればというような気がしてくる。

息子は翌朝、電車で食べるとおにぎりを持ち、元気に帰っていった。